

猫の閉塞性肥大型心筋症における僧帽弁収縮期前方運動の発症機序についての考察 3

○大池三千男¹⁾ 犬飼久生²⁾

1) おおいけ動物病院・帯広 2) 猫の病院・北見

【はじめに】現在、猫の僧帽弁の収縮期前方運動（SAM）においては、以下の事が疑われている。

- ・肥大した乳頭筋の変異が僧帽弁の SAM を引き起こしている。
- ・僧帽弁の SAM が閉塞性肥大型心筋症（HOCM）を引き起こしている。
- ・僧帽弁の SAM は通常僧帽弁逆流（MR）を併発している。

しかし、演者らが若齢から報告している 2 症例は上記の様な経緯を経ていない。

【症例 1】スコティッシュ・ホールド、雄、初診時 6 カ月齢。突出した中隔壁の肥大が原因の HOCM と診断した。乳頭筋の肥大が顕著であったが、腱索の SAM、僧帽弁の SAM、MR 等は引き起こしていなかった。その後病状は進行し腱索の SAM を発症し、MR を併発した。しかし、僧帽弁の SAM は発症していない。現在長期治療によって MR は消失している。

【症例 2】スコティッシュ・ホールド、雄、初診時 5 カ月齢。突出した中隔壁の肥大が原因の HOCM と診断した。乳頭筋の肥大が顕著で、すでに腱索の SAM が認められ、MR は極わずかのみ認められた。しかし、僧帽弁の SAM は認められていなかった。その後、病状は進行し腱索の SAM に加えて、MR が重症化した。しかし、僧帽弁の SAM は発症していない。現在長期治療によって MR は消失している。

【考察】2 症例の病期の進行が示す猫の僧帽弁の収縮期前方運動（SAM）の発症原因は、以下の様に考えられた。

原因 1. 心室中隔の肥大と突出による閉塞性肥大型心筋症（HOCM）の存在

原因 2. 収縮末期に突出した中隔壁が腱索や僧帽弁と 1 度目の接触をし、直後の拡張初期に僧帽弁が開口し腱索や僧帽弁が中隔壁と 2 度目の接触をする。腱索や僧帽弁が接触障害を受け続ける事で病期が進行する。

上記の様な経緯から、閉塞性肥大型心筋症（HOCM）から僧帽弁の SAM 発症までのステージ分類を以下の様に提唱する。

ステージ 1. 心室中隔の肥大による閉塞性肥大型心筋症（HOCM）

ステージ 2. 腱索の収縮期前方運動（腱索の SAM）

ステージ 3. 腱索の収縮期前方運動（腱索の SAM）+ 僧帽弁閉鎖不全（MR）の併発

ステージ 4. 僧帽弁の収縮期前方運動（僧帽弁の SAM）+ 僧帽弁閉鎖不全（MR）の併発